

3. 新聞等に掲載された活動

○社会医学部門 健康リスク管理学研究分野（原研リスク）

| 氏名・職 | 活動題目 | 掲載紙誌等 | 掲載年月日 | 活動内容の概要と社会との関連 |
|------|--------------------------------|--------------|----------------|--|
| | ウクライナ・甲状腺への影響調査 トロンコ氏に永井賞 | 長崎新聞 毎日新聞 | 2013年2月 10日 | 長崎・ヒバクシャ医療国際協会は、第9回永井隆平和祈念・長崎賞をウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所所長のミコラ・トロンコ氏に贈った。 |
| | ロシア、ウクライナなど被ばく者治療を研修4カ国医師ら市長訪問 | 長崎新聞 | 2013年7月 23日 | 長崎市や県、長崎大などで行く「長崎・ヒバクシャ医療国際協会」が1993年から国際貢献事業の一環で招いている。 |

○社会医学部門 国際保健医療福祉学研究分野（原研国際）

| 氏名・職 | 活動題目 | 掲載紙誌等 | 掲載年月日 | 活動内容の概要と社会との関連 |
|---------|------------------------|-------|-----------------|---|
| 高村 昇・教授 | ウクライナ・コロステン市長文化交流協定を提案 | 長崎新聞 | 2013年4月 25日 | モスカレンコ市長が長崎市と文化的交流と協定の締結を求め、長崎市副市長と共に同席した。 |
| 高村 昇・教授 | 長崎大「支援」から「定着」へ | 福島民友 | 2013年8月 3日 | 長崎の被爆者とチェルノブイリ原発事故の双方の治療経験者としてコメントした。 |
| 高村 昇・教授 | 福島の現状と課題探る | 長崎新聞 | 2013年9月 16日 | 川内村の遠藤村長らと講演し、パネルディスカッションをした。 |
| 高村 昇・教授 | 長崎くちで川内村事故後初収穫新米30キロ奉納 | 長崎新聞 | 2013年10月 10日 | 福島県で事故後初めて収穫された新米を諏訪神社に奉納する仲介役を務めた。 |
| 高村 昇・教授 | 長崎大、学生を現地派遣へ | 西日本新聞 | 2013年10月 23日 | 川内村の小学6年生に対し「復興子ども教室」を11月末から始めると発表した。 |
| 高村 昇・教授 | 福島・川内村小6に復興教室 | 朝日新聞 | 2013年10月 23日 | 川内村の小学6年生に対し「復興子ども教室」を11月末から始めると発表した。 |
| 高村 昇・教授 | 放射線防護対策案、月内にもまとめ | 福島民報 | 2013年11月 9日 | 今回原子力規制委員会の対応について、妥当な判断との見方を示した。 |
| 高村 昇・教授 | 福島復興テーマ長大教授ら講演 | 長崎新聞 | 2013年11月 30日 | 原発事故からの復興をテーマにした学術講演会で講演を行った。 |
| 高村 昇・教授 | 長崎大生が復興教室 | 福島民報 | 2013年12月 3日 | 川内村川内小に保健学科と教育学部の学生と共に訪問し6年生に「復興子ども教室」を実施した。 |
| 高村 昇・教授 | 長崎大が線量計貸出し被ばく測定、分析へ | 朝日新聞 | 2013年12月 18日 | 川内村で医学部の学生らと共に、帰宅する住民の住宅の空間線量と土を調べる予定。 |
| 高村 昇・教授 | 福島の帰村住民に線量計貸し出しへ | 読売新聞 | 2013年12月 18日 | 原発20キロ圏内の帰村者を支援するため、個人線量計を住民に貸し出すことを明らかにした。 |
| 高村 昇・教授 | 福島の児童 復興考える | 読売新聞 | 2013年12月 24日 | 復興子ども教室で訪れた小学6年生に長崎の医学の歴史や核廃絶の取り組みなどについて講義した。 |
| 高村 昇・教授 | 乳歯 ストロンチウム | 福島民報 | 2013年12月 | 福島県内の子供の乳歯にストロンチウム |

| | | | | |
|---------|-------------|------|------------------|---|
| | ム調査 年明けにも開始 | | 月 24 日 | ム 90 が含まれているかの調査に関してコメントした。 |
| 高村 昇・教授 | 長崎大で「復興」授業 | 産経新聞 | 2013 年 12 月 25 日 | 復興子ども教室で訪れた小学 6 年生に授業を行い、川内小についてコメントした。 |

○社会医学部門 放射線災害医療学研究分野（原研医療）

| 氏名・職 | 活動題目 | 掲載紙誌等 | 掲載年月日 | 活動内容の概要と社会との関連 |
|---------|-------------------------------|---------------------------------------|----------------------|---|
| 山下俊一・教授 | NASHIM20 年原研 50 年記念シンポジウム | 長崎新聞 | 2013 年 2 月 10 日 | 記念講演で、元長崎大大学院医歯薬学総合研究科長の山下俊一福島県立医科大副学長は長崎大が福島第一原発事故直後から現地を支援した経緯などを説明。 |
| | ウクライナ・甲状腺への影響調査 トロンコ氏に永井賞 | 長崎新聞 毎日新聞 | 2013 年 2 月 10 日 | 長崎・ヒバクシャ医療国際協力会は、第 9 回永井隆平和記念・長崎賞をウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所所長のミコラ・トロンコ氏に贈った。 |
| 山下俊一・教授 | 新たに 2 人甲状腺がん 福島、放射線の影響否定 | 長崎新聞 毎日新聞 | 2013 年 2 月 14 日 | 検討委の山下俊一座長は「20 代、30 代に見つかる可能性があったものが、(調査で)かなり前倒して見つかった」との考えを示した。 |
| 山下俊一・教授 | 放射線健康リスクを考える 福島で国際学術会議開幕 | 福島民報 | 2013 年 2 月 27 日 | 山下俊一福島医大副学長らが登壇し、放射線健康リスク管理について、将来に向けた提言をまとめる。 |
| 山下俊一・教授 | “被ばく”への挑戦 長崎大と福島 1 | 長崎新聞 | 2013 年 3 月 3 日 | 県民健康管理調査 実態解明へ研究者模索 混乱の被災地で「走りながら先鞭」 |
| 山下俊一・教授 | 福島県民健康管理調査検討委 外部被ばくの推計に光明 | 西日本新聞 | 2013 年 3 月 7 日 | 福島県の「県民健康管理調査」の検討委員会座長を務める山下俊一・福島県立医大副学長に、これまでの調査について聞いた。 |
| 山下俊一・教授 | 健診結果の一元化が必要 山下俊一・福島県立医大副学長 | 朝日新聞 | 2013 年 3 月 8 日 | 県民の健康調査は長期戦。検査する側と受ける側が協力し合い、よりよい調査にしていきたいと述べる。 |
| 山下俊一・教授 | “被ばく”への挑戦 長崎大と福島 6 | 長崎新聞 | 2013 年 3 月 9 日 | リスクコミュニケーション 理論と実践にギャップ |
| 山下俊一・教授 | “被ばく”への挑戦 長崎大と福島 7 | 長崎新聞 | 2013 年 3 月 10 日 | 教訓 “安全神話”に決別を |
| | ベクレルの嘆き ―放射線との戦い― 第 2 部 安全の指標 | 福島民報新聞 | 2013 年 3 月 13 ～ 18 日 | 放射線リスクをめぐる専門家や政府の対応、甲状腺検査や内部被ばく検査、リスクコミュニケーションの現状などを追う。 |
| 山下俊一・教授 | インタビュー | 河北新聞 | 2013 年 3 月 23 日 | 長崎大に復帰する、福島県立医大副学長の山下俊一氏に、福島県に滞在した 2 年間で感じた思い、事故の影響の見通しを聞いた。 |
| 山下俊一・教授 | 福島復興担当副学長に就任 長崎大新設 | 朝日新聞 西日本新聞 朝日新聞 長崎新聞 読売新聞 | 2013 年 4 月 3 日 | 長崎大は、東京電力福島第一原発事故の直後に福島に入り、県民の被曝による健康影響調査などに携わっていた医学部の山下俊一教授が、新たに設けられた福島復興担当の副学長に就任したと発表した。 |

| | | | | |
|---------|---------------------------------|-------------------------------|------------------------|--|
| | | 日本経済新聞 毎日新聞 | | |
| 山下俊一・教授 | クローズアップ 2013 福島 子供の甲状腺検査 | 毎日新聞 | 2013年 4月22日 | 県民健康管理調査検討委座長の山下俊一・県立医大副学長（非常勤、4月から長崎大副学長）に聞いた。 |
| 山下俊一・教授 | 第49回 日本小児放射線学会学術集会 | 教育医事新聞 | 2013年 4月25日 | 山下俊一・長崎大学理事・副学長/福島県立医科大学副学長による特別講演「低線量の放射線人体影響:チェルノブイリと福島の経験から」の内容を紹介する。 |
| 山下俊一・教授 | 平和宣言文起草委 日本政府を強く批判 | 長崎新聞 | 2013年 6月9日 | 長崎原爆の日（8月9日）の平和祈念式典で長崎市長が読み上げる平和宣言文の第2回起草委員会が、長崎市内であった。 |
| | ロシア、ウクライナなど 被ばく者治療を研修4ヵ国医師ら市長訪問 | 長崎新聞 | 2013年 7月23日 | 長崎市や県、長崎大などで行われる「長崎・ヒバクシャ医療国際協力会」が1993年から国際貢献事業の一環で招いている。 |
| 山下俊一・教授 | 山下教授 名誉市民に カザフ・セメイ市 | 長崎新聞 読売新聞 | 2013年 9月10日、 11日 | 長年、被ばく医療に携わってきた長崎大の山下俊一副学長に、カザフスタン・セメイ市の名誉市民の称号が外国人として初めて授与された。 |
| 山下俊一・教授 | 福島支援 教育でも 長崎大、学生を現地派遣へ | 西日本新聞 長崎新聞 読売新聞 毎日新聞 | 2013年 10月23日 | 山下俊一副学長は「他大学の復興支援のモデルとなる活動にしたい」と抱負を語った。 |

○放射線生命科学部門 分子医学研究分野（原研分子）

| 氏名・職 | 活動題目 | 掲載紙誌等 | 掲載年月日 | 活動内容の概要と社会との関連 |
|---------|--------------------------------|-----------|-----------|---|
| 荻朋男・准教授 | がん/老化/骨格異常に 関与するDNA修復遺伝子を同定 | 読売新聞、長崎新聞 | 2013/4/26 | がん/老化/骨格異常に関与するDNA修復遺伝子を同定した。ゲノム不安定性を呈する遺伝性疾患に関連する様々なDNA修復遺伝子とその機能を解明する事で、社会的に関心の高い老化やがん化のメカニズム解明につながる。 |

○原爆・ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野（原研内科）

| 氏名・職 | 活動題目 | 掲載紙誌等 | 掲載年月日 | 活動内容の概要と社会との関連 |
|---------|-----------------------|-------------------------------------|------------|--|
| 宮崎泰司・教授 | 韓国での放射線被曝者医療セミナーに参加して | NASHIM ヒバクシャ医療国際協力会通信 Vol.33 | 2013年3月27日 | 韓国への専門家派遣～被曝者医療セミナーの開催～:ハプチョンでの医療機関訪問と被ばく者医療セミナー開催。ソウルでの医療関係者向け、広島・長崎の被ばく者医療向けの最新の知見と福島原発事故への対応や健康影響について講演をするため、広島の放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）と初めて合同で実施した。 |
| 宮崎泰司・教授 | 第12回国際MDSシンポジウムに参加して | 骨髄異形成症候群（MDS）連絡会 わいわい Home 通信 No.13 | 2013年6月 | 2013年5月にベルリンで開催されたMDSシンポジウムに出席した感想及び最新のMDS研究の紹介。また、ドイツでのMDS患者会の様子を紹介した。 |

| | | | | |
|--------------------|--|---|----------------|---|
| 蓬萊真喜子・医員 (大学院生) | 長崎 女性医師× Special Discussion 長 崎の女性医師 4 人 による“長崎の医師で よかった”トーク | キャリアの軌 跡 女性医師 特集号ー2 Vol.40 (長崎大 学病院 医療 教育開発セン ター発行) | 2013年6月 20日 | 女性医師支援に力を入れた働きやすい 環境について、長崎の女性医師4人で意 見を出し合った。 |
| 宮崎泰司・教授 | 白血病原因遺伝子を 発見ー被曝数十年後 高確率で発症、死亡 (マウス実験) | 読売新聞(東京 版) 夕刊 | 2013年9月 10日 | 広島大学の稲葉俊哉教授、本田浩章教授 らの研究チームが9月9日付の科学誌 「キャンサー・セル」電子版に放射線被 曝による白血病の原因遺伝子をマウス 実験にて発見した。と発表した件につ いて、読売新聞記者より取材され「7番 染色体の欠落は放射線に限定されたこ とはなく、薬剤などでも起きる。マウ スを使った実験だが、放射線被曝で起 きる白血病の原因解明にもつながる効 果だ」とコメントをした。 |

○原爆・ヒバクシャ医療部門 腫瘍・診断病理学研究分野（原研病理）

| 氏名・職 | 活動題目 | 掲載紙誌等 | 掲載年月日 | 活動内容の概要と社会との関連 |
|---------|---------------------------------|-----------------------|----------------|--|
| 七條和子・助教 | 病理標本から被ばく 解明 | 長崎新聞 | 2013年 2月3日 | 原爆投下からやがて70年になろうとす る中、被爆地長崎では米国から返還さ れた被爆者の病理（解剖）標本から、内 部被ばくの実態を解明する作業がすす められている。 |
| 中島正洋・教授 | 長崎大「原研」創設50 年 | 長崎新聞 | 2013年 2月9日 | 原研創設50周年の紹介記事で、被爆 者臓器保存の内容、生体試料バンクの必 要性、がん研究について解説した。 |
| 中島正洋・教授 | 終わりなき被爆との 闘い～被爆者と医師 の68年～ | NHK スペシャ ル（放送） | 2013年 8月6日 | 被爆から68年の今、第2の白血病MDS （骨髄異形成症候群）が被爆者を襲っ ている。MDSと被爆の因果関係の証明、 目に見えない放射線が人の体を蝕むし ばむメカニズムなど広島、長崎の医師 たちの粘り強い研究と治療。終わるこ とのない原爆の脅威を抱える患者の叫 びと寄り添う医師たちの絆を映した番 組への取材協力。 |
| 三浦史郎・助教 | 遺伝子研究に託す 被爆者の思い | NHK おはよう日本 | 2013年 8月6日 | 被爆後68年経った後、遺伝子解析な どめざましい研究手法の発展の中、長 崎原爆被爆者の遺伝子研究のために、 被爆者の腫瘍の生体試料バンキングが 行われている。自らの検体を今後の研 究に寄与する被爆者の思いと今後の研 究の可能性について紹介。 |
| 三浦史郎・助教 | 遺伝子研究に託す 被爆者の思い | NHK WORLD NEWSLINE | 2013年 9月30日 | 被爆後68年経った後、遺伝子解析な どめざましい研究手法の発展の中、長 崎原爆被爆者の遺伝子研究のために、 被爆者の腫瘍の生体試料バンキングが 行われている。自らの検体を今後の研 究に寄与する被爆者の思いと今後の研 究の可能性について紹介。（国際放送版） |

○資料収集保存・解析部 生体材料保存室（原研資料室）

| 氏名・職 | 活動題目 | 掲載紙誌等 | 掲載年月日 | 活動内容の概要と社会との関連 |
|---------|--------------------|-----------------------|----------------|---|
| 三浦史郎・助教 | 遺伝子研究に託す 被爆者の思い | NHK おはよう日本 | 2013年 8月6日 | 被爆後68年経った後、遺伝子解析などめざましい研究手法の発展の中、長崎原爆被爆者の遺伝子研究のために、被爆者の腫瘍の生体試料バンキングが行われている。自らの検体を今後の研究に寄与する被爆者の思いと今後の研究の可能性について紹介。 |
| 三浦史郎・助教 | 遺伝子研究に託す 被爆者の思い | NHK WORLD NEWSLINE | 2013年 9月30日 | 被爆後68年経った後、遺伝子解析などめざましい研究手法の発展の中、長崎原爆被爆者の遺伝子研究のために、被爆者の腫瘍の生体試料バンキングが行われている。自らの検体を今後の研究に寄与する被爆者の思いと今後の研究の可能性について紹介。(国際放送版) |